

県議会へのご意見をお聞かせください。

1 9つのテーマに関する県民の皆様からの意見募集について

秋田県議会では、議会の審査や政策提言の参考にするため、県議会への意見募集を行っています。

今年度は、次の9つのテーマについて、県民の皆様からのご意見を募集します。

(1) 募集テーマ

【テーマ1】賃金水準の向上について

賃金水準の向上については、新秋田元気創造プランにおいても特に注力すべきものとして掲げられている。賃金水準向上のためにどのような対策が必要なのか、ご意見をお知らせください。

意見：秋田県の賃金水準は全国平均の約15%低く、また最低賃金も全国的にみても低い水準になっている。私の身近なところにある中小企業の社長は「たいした仕事もしないのに最低賃金なんて決められても困ってしまう」、あるいは秋田県の中核的企業ともいわれる創業者が率いる会社は他社に比較しても低く就職をお世話する工業高校の先生方にとってもすこぶ

る評判がよくない。もちろん生徒さんにとってもである。このような経営者の認識もある背景の中で次の対策を提案する。

(1) 3年を目途に最低賃金を全国トップクラスに持ち上げる。 (反対の経営者は多々あるはずだが、彼らのいう最低賃金との格差は県が財政支援する。)

(2) 経営者と県目標の賃金差は主として生産性によるものと考えるので、その生産性向上に県が最大限の支援を行い、その差を5年以内になくする。

(3) 賃金優良企業の選択的育成、および／あるいは秋田県の企業立地優位条件（環境、エネルギー、良質な県民労働力）を生かした賃金優良企業の誘致

【テーマ2】 労働者の確保について

大手企業の県内進出に伴い、県内企業での労働者不足が発生している状況にあるとも言われている。労働者の確保についてどのように対応すべきか、ご意見をお知らせください。

意見：高校、大学卒業者のおよそ半分は県外就職をしている実態を考えると、その原因をまず追究し対策をすべきである。また、多くの県外就

職者も機会と条件が合えば、故郷に尽くしたいとの念はもっている。その気持ちを現在以上の施策で吸い上げる仕組みを構築することである。次の対策を提案する。

(1) テーマ1にある賃金の向上。インパクトのある高賃金化の政策

(2) 今行っているAターン、Uターン政策の今以上の強力化。県外流出労働者の賃金にハンディを感じさせない優遇待遇支援。

(3) 県内教育機関に対するインターン事業、リクルートの強化。これには当事者の学生さんだけでなくそのご父兄にも届くやりかた。

(4) 海外労働力の利用。とくに県内教育研究機関との連携を強化し、定常的な海外労働力誘導の仕組みを作り上げる。

(5) 人生、100年時代。元気な県内、県外にかかわらず年配労働者の活用。

(わたくし自身も県外企業に就職し、定年とともに秋田に手伝いにきて、その終了後も団体を作って活動をしている、そして秋田に転入した78歳男性である)

【テーマ3】 水田活用の直接支払交付金の見直しについて

見直しにより生産性の低下、排水対策、栽培管理など農家への影響が大きい。見直しについて、ご意見をお知らせください。

意見：日本の農業政策、とりわけ水田対策は歴史的に見ても結果的には失敗を繰り返してきた、と言ってもいいだろう。長期的視点にたらずその場しのぎの対策や農家支援であったのである。本テーマについては行政の政府自民党にたいする要望の動きやメディアからの発信もあるが、多くは「転作推進に逆行」、「主食米を減らすのに協力してきたのに突然はしごをはずされた」など不満は多い。次の対策を提案する。

(1) 農業政策は基本的に、① T P P 批准によって引き出される課題解決の視点、②食料安全保障の視点、②環境保全の視点である。以上の視点から俯瞰的に行うべきと考える。猫の目行政では困るのである。

(2) 見直しによる生産性の低下、排水対策、栽培管理など農家への影響が大きい、といった弊害は理解する。

(3) 農家、県民、国民は(1)の視点をさらに細かくブレイクダウンして「見直しに反対」し、現状改善点も洗いながら、いわば、硬軟両方の視点で対応すべきである。

【テーマ4】 女性が暮らしやすく活躍できる社会の実現について

女性の活躍できる社会の実現に向けて、地域の推進的役割を担う人材養成や女性活躍啓発イベントの開催などに取り組んでいる。これらだけでなく、地域社会全体で取り組むことが求められているのではないか。ご意見をお知らせください。

意見：女性が暮らしやすく活躍する社会の実現は、法的な枠組みとしては1985年の男女機会均等法が制定されてから今日まで徐々に法律の内容が拡大され、また努力規定が禁止規定となって充実してきているように思う。しかしながら男女機会均等法が制定されてから35年以上になるのにまだまだというのが周りの女性たちにヒアリングした結果でもある。「女性が暮らしやすく活躍できる社会の実現」を考える場合、ここで謳われている対象の「女性」だけでは決して解決できないチャレンジでもある。次の対策を提案する。

(1) 最近の日本のジェンダーギャップ指数は国際的にも下位に属している。長年日本はこの分野で下位に属しており先進国と言われるのには程遠い。女性の問題は男性の問題でもあり、意識の問題でもある。「男女平等に関する学校教育（小学校から）の充実を図る」とともに「諸事例を学び幼い時からのワークショップ」を実践すること（小学校、中学校教育には地域の

考えも反映しやすい)。この内容は地域社会の活動の中にも取り入れ老若男女の共通認識として落とし込む。このような教育内容を制作する段階では、国・地方自治体・地域を巻き込むことが重要であろう。例えば、学校ではなぜ男女別名簿になっているのか、なぜランドセルの色は男女が異なるのか、などなど。なお、先日甲子園の高校野球で感動したことがあった。三田西陵高校の主将を務めた女子部員の東尾凜さん（女性）が先導役として堂々と先頭を行進したことである。男女の高校野球部員の中で主将を務めたが試合には出ることがかなわなかったが、関係者は主将としてチームを引っ張ってきた点を評価して実現したのである。このような事例も男女平等の意識変化に寄与するであろう。

(2) かかる課題に対する地域の活動には女性のみならず男性の参加も必須である。

(3) 女性の人生の中で関わってくる大きなテーマのひとつとして出産がある。この「出産」は実は女性個人、パートナーを含めた家庭、だけのものではなく、企業基盤、地域基盤、国家基盤を形成する基本的重要な要素である。以下を提案する。

・両親が基本的に半分半分の日数で育児休暇をとれるものとする。（国内大手企業で実践しているところもある。フィンランドでは2022年9月4日出産予定日、誕生日の子どもの両親に対して適用される法改訂がなされた）

・「代理勤務」概念の導入。長期休暇で不在となると再勤務時に自分の居場所がなくなる懸念、昇進阻害の懸念が生ずる。そのような懸念が生じないように、出産休暇においては代替の人がその仕事を補うしくみ。

・子連れで仕事ができること。できれば会社に同伴して身近で子供の面倒を見ながら働ける環境。同伴無理であれば、保育所や幼稚園送り迎えの負担軽減のため会社のビル単位、工業団地単位で託児所があればいいなと思う。（実際に国内企業でもあります）。育てるのに便利であれば、もう一人産もう！と思うでしょう。子育てしやすい環境がつまりは働きやすい環境につながると思う。

（４）言い古されたことではあるが、女性基幹職登用、そのための教育などを積極的に行うこと。これは企業や役所の課題のように見えるが一方で人材確保、地域の豊かさにも寄与する。これは前記の女性の出産・育児などにとまなうことを無くするものでもある。

（５）フィンランドが実施し日本のいくつかの自治体もその活動概念を取り入れて試行中のところがある「ネウボラ」（フィンランド語）の概念や

仕組みを研究し我が秋田県に適用できるところを適用していく。

【テーマ5】 ふるさと教育の充実について

「ふるさと教育」が進められている中で、郷土の理解を深める学習を教師に全て委ねるには限界がある。「ふるさと教育」の充実をいかに図るか、ご意見やアイデアをお知らせください。

意見：「ふるさと教育」の充実は様々な面で重要なことはいうまでもない。例えば香川県も本年3月には「ふるさと教育推進検討委員会」が「『ふるさと教育』の充実に向けた今後の在り方について」報告をしております。さて、本テーマについてだが、現在の教師の置かれている負担を考えると、教師に全て委ねるには限界がある、と思うのは当然である。以下を提案したい。

(1) 社会人講師、学芸員経験者、地元経営者（OBも）など、地域の様々な分野で活動した（している）あるいは地域に貢献したい人をボランティアとしてお願いする。この他、地元出身者でその道を究めた人も好適対象者であろう。もちろん、教育の一環であるから、一定の資格要件は具備するようにする。このような人材は結構いるのではないか。また教育内容の整備を進める。

(2) 語り継ぐ人材を育成する。

(3) ロールモデル地域を作り、その成果・課題を他地域に展開する。

【テーマ6】 学校給食の無償化について

教育負担が増える中、保護者の間に給食の無償化の要望が聞かれる。給食無償化と高校への拡大について、ご意見をお知らせください。

意見：「もはや 日本は先進国ではないよ、お父さん」と息子が言ったのには「このままではそうかな」と変にうなずくものがあった。共働きがほとんどの中、子供の教育、もとになる体づくり、が大切なことは言うまでもない。学校給食の無償化、高校への拡大おおいに賛成である。先進国の先進国たる第一歩は「生まれる子供を大切に育て（健康、教育、夢の実現）ることにある」と考える。

【テーマ7】 新スタジアム及びアリーナ整備について

サッカースタジアム構想や県立体育館建て替えに伴うアリーナ構想など、県民の関心が高いプロスポーツの本拠地としての施設整備について、ご意見をお知らせください。

意見：秋田がめざす「高質ないなか」のコンセプトは好きである。一方、何が高質であるべきか、ということはあまり議論されていないようにも思

える。日本一とは言わないが、東北一のものをつくり、地域、産業、スポーツ文化を活性化させ人流を呼び込むこと。「県民の誇り」、を作り、育てるのに税金を使ってもらいたい。県債もあろう。以下を提案する。以下の施設整備で国民の関心もひき観光にも役立つ。

(1) 使用エネルギーを可能な限り再生可能エネルギーとする。最近竣工したあきた芸術劇場では採用しなかったようだが、本施設を活用してエネルギーを創出（足踏み振動による電力の創出、太陽光発電、風力発電）

(2) 中途半端な設備とせず様々な要素を取り入れた複合施設（ごみ焼却炉、その熱源利用温泉、娯楽、商業施設・・・）

(3) 当然施設計画委員会が設置されアイデア、資金積算などなされるだろうが市民諸団体も組み入れること。

【テーマ8】 燃料費や物価の高騰に対する支援について

燃料費や物価の高騰により影響を受けている県民や企業への支援について、支援の在り方や具体的な支援ニーズなどをお知らせください。

(1) 燃料費については、私個人としては自家用車用ガソリンが対象であるが現在の石油元売りへの支援が効果を発揮しているように思うので、燃料費高騰下において引き続き支援してほしい。

(2) 政府もだいぶ細かく支援策を講じているようだが、物価高騰に対し、コロナ下の苦しさも含めて潟上市は近く1世帯当たり12000円を支給するという。国は一人当たり10万円以上の支給を検討してほしい。タンス預金にならない方法も検討して。なお、潟上市は支給希望者を確認する意味で用紙で関連情報をもとめているがそれも参考になろう。

【テーマ9】 高齢化が進む中での災害対応の在り方について

高齢者の割合が高くなる中で、防災・避難訓練が行われているが、高齢者など災害弱者が思いどおりに避難できないという切実な声を耳にする。

いざという事態に、県民の命、とりわけ高齢者等の命をいかに守るかに
ついて、ご意見をお知らせください。

(1) 私も独居老人である。幸い地形や隣近所の方々に恵まれているのでさしたる心配はしていない。しかしながら、そうでない方々も大勢いるので下記を提案したい。

・まずは行政先手を中心とした方がた（町内会長など）が音頭をとって高齢者が近隣と仲良くなる方法を自治体と協力しながら計画する（特に秋田の、特に、高齢者は「人に迷惑をかけたくない」との意識が強いように思うので）。要は互いの親しさとコミュニケーションづくりの要素が一番大事。

・訓練ではあるが楽しくゲームのようにやる。もちろん必要な機材は準備
をしておく。